

EMT981 再生系の再構成(15)

－ハイドンを聴く(6)－

1. はじめに

前報(3)において EMT981 から Truphase を経て 300B アンプまでのバランス伝送が実現した機会に、手持ちの CD を聴き直していくことにしました。今回も、しばらく聴いていないハイドンの作品を聴いていきます。

2. EMT981 の試聴方法

今回、Autograph MINI での試聴を行います。

EMT981 の再生では、前報(7)と同様に前報(2)の再生ルートとします。

EMT981(*)→TruPhase→.300B

* : GPS-777 より CCD-6 経由でクロック入力

古い録音で定位などに違和感が感じられるときは TruPhase で位相を反転します。

再生する CD はハイドンの弦楽四重奏曲です。

Hyperion CDA67793

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 71 No.1～No.3

タカーチ四重奏団

PHILIPS UCCP-7080

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 67<ひばり>

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 17<セレナーデ>

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 76<五度>

ハイドン 弦楽四重奏曲作品 77<皇帝>

イタリア弦楽四重奏団

3. EMT981 の試聴結果

タカーチ四重奏団盤もイタリア弦楽四重奏団盤も、演奏会で求めてきたものです。

タカーチ四重奏団盤は、2010年と2011年の録音で、アップテンポ気味で切れの良い演奏で、音質はワンドレンジであり、透明度が高い演奏です。

イタリア弦楽四重奏団盤は、1965年と1976年の録音で、お馴染みの曲ばかりで、イタリアのグループらしくよく歌わせる演奏です。録音が古いのですが、PHILIPS レーベルなので位相反転は必要ないようです。

4. まとめ

クロック入力した EMT981 からのバランス接続の効果で、二つの盤とも録音年代の

違いも分かり、デジタル臭さを感じない艶やかな音が楽しめます。

以上